

(株)サンニクス 2022年3月期第3四半期決算説明会概要

日時：2022年2月15日（火） 13:30～14:30

※WEBライブ形式にて実施

※決算説明会動画 (<https://sanix.jp/ir/images/202203q3.mp4>)

- ・決算概況
- ・通期業績見通し
- ・代表取締役社長 宗政寛 コメント

(以下、決算説明会での質疑応答)

Q：新電力事業について、卸売の場合は価格転嫁がしやすく、小売に比べて市場の高騰リスクを受けにくいと考えているが、御社の状況を教えてください。

A：弊社の卸売は、年間契約を結んでいる先が多く、販売価格の変更が容易ではない。そのため、今回のような市場価格の高騰においても販売価格に反映できず影響を受けることとなり、今期大きな赤字になっている。

Q：新電力事業について、機能面の強化による他事業との相乗効果の創出を目指すなどの説明があったが、他事業を発展させていくために、必ず新電力事業が必要なのか。

A：相乗効果を生むのは、純粋な電力の取引だけではない。特に、再生可能エネルギーが普及・拡大していく局面において、需要と供給のバランスの見極めが課題となるが、新電力事業を行うことで知見などを蓄積できると考えている。今後、再生可能エネルギーを普及・拡大していく中で、自治体や個々の住宅をまとめたエリアで太陽光発電を導入していくケースも想定されることから、商機を逃さないために、電力を調整する技能も磨いていく。一方で、必ず自社で行う必要がないとの意見もあるが、外部のサービスと一緒に進んでいく場合でも、当社に専門性の知見がないことで、組み方を誤るケースも出てくるため、試験研究的な部分も含めて新電力事業を通して技能・知見を磨いていく考えである。

Q：新電力事業について、3期連続の赤字になるが、今後のリスク管理について教えてください。

A：まず、新電力事業は、これまで事業の柱となるような成長事業と位置づけてきたが、今後は、機能面の強化による他事業の補助的な事業にしていく方針である。次に、市場リスクを最小限に抑える事業構造へシフトする。現在、約100億円程度の売上規模があるが、相対調達規模に合わせて、大胆に売上規模を縮小する。また、卸供給に関する大部分を市場調達に頼っていたことから、市場価格高騰による逆ザヤの影響が大きくなり、リスクコントロールが十分に出来ていなかったと考える。来期以降については、調達量を確定させたうえで供給量を決定するといった方針へシフトする。また、現在、直接供給している小売の一部については、弊社が供給責任を負わない取次契約へのシフトを検討している。

Q：新電力事業について、卒FIT先の太陽光発電を電源として使わないのか教えてほしい。

A：現在、卒FIT先の太陽光発電の電源を積極的に買い取ることはしていない。理由としては、太陽光発電は、昼間の発電、また、季節や天候に左右されることから需給のバランスがとりにくい不安定な電源であり、非常に扱いにくい電源であるためである。

Q：環境資源開発事業について、廃プラスチックの採算性や処理単価の動向について教えてほしい。

A：今期については、第1四半期に苫小牧発電所の法定点検を行ったことから、前期に比べて利益がマイナスとなっているが、廃プラスチックの採算性や処理単価については、前期と同様に変わらず維持できている。また、営業活動の強化等により受入量を増やしつつ、採算性をより高めていきたいと考えている。

以上